

英國民の特色

東京女子高等師範
 學校教授 文學士 下田次郎

本稿は去月二十七日、赤坂區役所樓上、通俗誦談會に於て同氏の講演を摘録せしものなるが、同氏の校閲を経たるものにあらずれば、文責は一に記者に在り。

武力では日本は一等國であるが、富力其他精神上では一等國ではない、即ち物質上精神上あらゆる點に於て、世界の一等國たる英國民の特色に就て、少しく語つて見たい。

英吉利は日の入らない國である、其屬國の大なるものは、印度加奈太等で、其小なるものに至つては、記憶のよい小學生でも骨の折れる位である。然るに日本には澤山ない、凡そ物忘れすることは悪いに極つてゐるが、併し屬領の島々は、忘るゝことほど多い方が宜しい、そうして英國は、香港シンガポール、ポートサイド等の要所々々をも占領してゐる、即ち英金を持つて居れば、世界中何處でも旅行が出来るやうになつてゐる、然るに日

本紙幣ではソんなことは出来ない、又英吉利人は男を女に化する外は、何んでも出来る、實際に於てもシカ信ぜられることが多い、即ち吾人の出來得ないと思ふことを、英國人はやつてゐる、例へば今の香港を拵へるにしても、あの熱病などの流行してゐる廢地を開いて今日わらしめたのである、又彼の浪荒きコロンボに防波堤を築き、以て碇泊に便ならしめ、今日のコロンボ港たらしめたのである、即ち英人の前には天然は從順である、山も川も皆征服し得べき道を知つてゐる、換言すれば男を女化する外は何事をもやり得るは、英國人の特色である。

次に英國人は自ら世界の中心國であると信じてゐる、丁度支那人が、自國を中華國と誇稱するやうに……何れに行つても英國人は、本國人は自分で、其國人は客人なるかの如くに思倣してゐる、何れに行つても悠長に重々しく構へてゐる、自分とは只一人であるけれども、其背後には大英國在るぞと考ふる如く見える、丁度本邦人が、他邦に行つて、我は武名赫赫たる日本人であると誇るやう

に……併し本邦人も數年前までは此自信なく、
 到る所「ヒケ」を取ることが多かつた、又先方でも
 今日のやうには敬意を拂つて呉れなかつた、私が
 獨逸に居た頃は、吾人を目して猿であるとさへ侮
 つたものもある、彼等こそ茶褐色の毛が生えてゐ
 るから、寧ろ猿に近いではないか、然るに今日は
 吾人を尊敬して日本人様と崇めてゐる、是れは申
 すまでもなく戦勝が興へて呉れた賜物で、とにかく
 國民の自覺心を喚起した、英國人は決して他に
 同化されぬことを誇りとしてゐる、相手をして自
 分と同様な眞似こそせしめるが、自分は決して他
 の模倣はしない、英人は英國の物と第一等とは同
 様であるかと考へてゐる、吾々日本人も英國人の如
 く、何處へ行つても日本的と言ひたい、即ち善い
 ものと言ひ、悪いものに言はぬやうにしたい、英
 人は一人一人獨得の特色があるが、日本人は一人
 一人著しき特色なく、團栗の丈比らべて、著しい
 強い人格がない、平凡な同じやうな人が多い、英
 人は、或詩人の言へるが如く、無數の人格の國民
 であつて、人々皆異なれる人格を有してゐる、日

本は英國と同じく、島が根の上にある、そして其
 上なる人間其物は皆人格であるやうにしたい、弱
 い國民は浮島である、私は、トルコ、ルーマニヤ、
 オーストリヤ、セルビヤ等の國民に接したが、成
 る程貧弱の人民らしく、重みなく、こせこせし
 てる然るに英人は一人にても惡るびれない、日本
 人もどうか何處に行つても、予は日本人なりとの
 自信があつて欲しい、かくて始めて深みのある人
 間となるのが出来る、彼の歌に「底ひなき淵やは
 噪はぐ山川の淺き瀬にこそ荒浪は立て」とある如
 く、淺い人間である丈それ丈、容易に泣きも笑ひ
 もする、英人は深みのある人間で、容易に泣きも
 笑ひもせぬ人間である或人は慰むべからざる人間
 なりといつてゐるが、げにさうである、英人は戦争
 に勝つても負けたやうな顔付をする——奥底の知
 れぬ人間だが、日本人は極めて善く泣き、又極め
 て善く笑ふ人間である。何れにしても今少しく大
 さくしたい、日本人は人生の根本よりして、大な
 る笑がない、泣く以上の深みがない、人生問題宇
 宙問題に對しても深みがない。

次に英人は極めて眞面目なる人間で御世辭のない國民である、英人は心にも無いことを謂はない不賛成ならば一時の都合で物を言ふことはしない英人は身體の全體で話す人民である、然るに日本人はイヤといふことは餘りせない、婦人會などで皆賛成の議決をなすことがあるが、然らば其内心から眞實に賛成したのかといふに、ナカ／＼さうではない、會後に可なり御勝手な御異見を述べられるのが多い、否男子でさへ時に御附合の賛成が多い、ノーを云へない押ししの弱い國民、外交にても否を云へない時には損をする、英人は無愛想の人間だが、よく附合へば、英人程親切なものはない懸値がない、當になる、承知すれば眞に承知する佛人より見れば何となく不愛想である、併し英人は其代り御世辭なしの正直をいふ、嘘の親切よりは、誠のノーの方が、却て其人のために親切である、併しナカ／＼近寄れぬ國民で、友達となるまでには可なり手間が取れる、同じ料理屋で隣席に坐を占めても、誰かの紹介がなければ、話し合はぬ國民である、昔達摩は九年間物言はなかつたさ

うであるが、英國に於ては、紹介は一の宣誓である、然るに日本では、紹介を迷惑のなすりつけとしてゐる、私も此紹介のために随分迷惑をしてゐることがある、日本では不信用者を紹介するが、英國では決してさうではない、他人から「汝はウソつきだ」と悪口されるのは、懷劍を胸に擬せられるよりもつらい、日本人には、十二ヶ月の外にウソツキといふ月がある、英國の或賣卜者は、自分の死ぬ月を占つたが、さて愈其月となつたがどういふものか死ねない、そこで前の占を確實にするために自殺したといふ滑稽話がある、英國では、銀行で金を預けても、別に請取書は出さぬ、日清戦争の後、我國で、賞金一億圓を英國銀行に預けたが、別に請取書は取らなかつた、時計を直すにも受取を取らない、漁車に乗る時荷物物を頼んでもチツキを呉れない、私は滯英の際、スコットランドからグラスゴーまで小荷物を頼んだが、別に受取は呉れない、愈グラスゴーに着いた時、あれは私の物ですと話したら、すぐ渡して呉れた日本では受取のあるものでも無くなることがある

此間新橋で何か無くなつたとかいつて大さわぎをしたさうだが、私も或時遠方から松茸を送られたが、どういふものか、松茸のそここに孔がわいてゐた、瀛車の中にも鼠か居ると見える。これだもの、荷物を合鑑しなくてはどうして渡しませうか、英國人は仕事は眞面目で、時間は確實に守る國民である、日本人の仕事は遊び半分だ、大工などの仕事の様子を見るに、朝は火にあたつてゐる御晝にも話語りしてゐる、それで何時仕事をするか分らぬ、そこで日本人の仕事には必ず番人がゐる、番人がゐるねばゴマカシが多い、かくて多くの仕事には多くの番人が要る、若し日本全國の番人を數へたらなかに人の數であらう、人物の不經濟是れより甚しきはない、英人は働く時は一生懸命に働く、日本人は遊ぶのか勉むるのか分らぬ。従つて朝から晩まで働いても正味は少い、又働く勢は弱い丁度、種油の行燈と電燈との如く、其熱度光度が非常に違つてゐる、従つて英國品は、丈夫だ、よく永持する、品物に飾りがないが持てる。嘗て文科大學英文學講師にハーンといふ人があ

つた、此人が日本人の特色として、日本人は恒久の性なく、箸にても杉箸を用ひ、穿物も下駄をはき、障子でも紙で張換へ、家でも一寸したものを建てる、是等によつて考へて見ると、日本人は遊牧の民ではないか、即一寸やりかけてはヂキやめる氣質あるのは、畢竟是れがためではなからうか、現に伊勢大廟でさへも二十年毎に改築する掟ださうだ、最も是れは古から清淨を好む邦人の氣風にも因らうが……、火山が多かつたり。水でも性急に流れる。變化の多い風土國であるだけ、従つて人は斯無常性非恒久性を有せるなるべく、又他面に於ては佛教も其原因であらうと、ハーンは言つてゐる、然り日本には、羅馬や希臘に於て見る如き、壯大な神社佛閣等の遺物がない、最も是等の建物のないのは、國の富力にも大關係がある、英國内は、中々充實してゐる、日本は資力乏しい、國力充實しない、御一新後、富は殖えたが、マダ貧乏だ、韓國の貧弱なるは、好き時分に役人に掠奪誅求せらるゝから、寶物を地中に隠匿し、他方に於ては働いても詰らぬといふ氣となつたか

らだ、日本でも代官時代には、時々是に類したことがあつた爲に、人民の發達に向て、幾分か阻害を興へ、以て今日のやうに貧乏を持來す一原因ともなつたと思はれるが……、我が國今日の文明は火事場拵一急場拵間に合せの、電線などの外觀の見苦しさ、大體は土中に架けるが至當だ、十年も二十年も保存の出來る電柱が欲しい、英國は瀛車の中でも、腰掛がフツクリしてゐる、ネルソンは、貧乏は打勝つべからざる罪惡なりといつてゐるが、英人は非常に貧乏を嫌つてゐる、詩人某も亦、英人の貧乏は不名譽なりとさへいつてゐる英國の紳士といふ語は、人といふ意義の外に、金があるといふの意義である、左れば英國の政治家は金を持つてゐる金がなく政治に奔走する人はない、然るに日本の政治家を通過するに、金がないのが常だ、一體政治は人が道樂に爲すべきもので、金の無い者がやるべきではない、支那の格言に恒産なき者は恒心なし、衣食足つて禮節を知るといふやうなことがあるが、是れは眞理だと思ふ良心を買つたり、思はぬことをしたりするのは、

つまり金がないからだ、左れば國力を充實するには、人民各充實せざるべからず、人民各充實するには先づ富まざるべからずだ、故に英人には生活難といふことは餘りない、大學教授などに時間の餘裕あるは、一は研究時間を多くさせるのと、一は私立學校などに出講するの時間と興へるためだ貧すれば鈍する、物質的に精神的にすべての物は發達せねばならぬが、私は其中で物質の方富力に重きをふきたい、固より物質夫自身は最上の物だとは考へてゐぬけれど……、英人は借金を恥づる借金をしまいと思つて、一生懸命に働く、若し一度借金すれば必ず返す氣で借りる、そして大に働く、是れがために、英人は必ず一藝に秀でゐる故福澤先生は、逆立は藝にあらすといはれてゐるが、併し是れも考へ様によつては一の藝たるを失はぬ、英人は一藝のみならず多藝に秀でゐる、えらい人程多藝多能で、其本職は果して何であるか分らぬ、日本人は餘りに専門的だ、工夫になどなると、目に一丁字がない、趣味が殆んど分らぬ然るに英人は多藝だ、かくて一方に於ては貧乏を

補ひ、一方では飽く迄も獨立する、貧乏の乏を辛
 棒の棒で防いでゐる、併しどんなことがあつても
 決して因つた顔をせぬ人民である、エマルソンは
 英人は自分の物ならば何んでもよい、帽子なども
 破れたのもよいといつたが、流行を追うて、め
 かしこむ人間は頼もしくない、潮の泡の如く頼み
 にならぬ、婦人は流行を追ふもの、自信力乏しき
 もの、日本人には流行を追ふもの多さが、英人も
 追ふけれ共、併し其上に超然としてゐる所がある
 日本人は随分己を空しくする、今日の文學にても
 無暗に人の名前を並べる、教育學にても西洋人の
 名前を臆べる、己を空しくして餘所のことを覺え
 てゐる、日露戰爭は、成る程武力にてこそ露西亞
 を征伐してゐるが、併し戦後露國文學は盛んに
 我國に輸入されたのである今日の文士などは露國
 文學の紹介に大に力めてゐるが、纏つて日本の文
 學は如何、何に依つて露國に紹介されてゐるか、も
 とく文學は、一般的世界的のもの私すべきもの
 ではないが、日本文學の彼に紹介されたるものが
 何もないと考へたら、非常に心持の悪いことでは

ないか、彼の戦捷の凱旋門に比すべきものが、我
 が國の思想界にあるか、かくては思想界に於ては
 露國に征伏されてゐる、是れ果して一等國の人民
 の面目か。

英國は一等國として、如何なる方面にも「グレ
 ート、メン」といふものがある、如何なる種類の人
 の會合にも、一座の中必ず「スー、グレート、メン」があ
 る、日本には武力の榮名に比すべき程の榮名がな
 い、日本は將來ある國で、其前途は頗る愉快であ
 るが、併し一等國としては遺憾なることが多い。
 又最後には「はんか、英人は大に運動を好み、運
 動は國民生活の最大要部となつてゐる、夏はクリ
 ケット、冬はフットボールが國民遊戯となつてゐ
 る、夕方になると方々の運動場について見ると、
 大人と小人とが入りまじつてやつてゐる、或人の
 語に、英吉利の景色は球が飛ばねば完全でないとい
 つたが、實に恣程運動は盛んである、千八百九
 十二年の調査に由れば、倫敦市に於ける運動場の
 數は實に千有餘である、然るに東京市には、僅に
 日比谷公園に一ヶ所あるのみだ、然も學生のみが

運動してゐる、横濱市に外人運動場があるが、是に對すべき程の運動場はない、早稻田や慶應では運動が盛んで、時々彼等外人とこゝでマツチをするところがあるが、彼等外人は多く、番頭や手代の類である、然らば彼等とマツチして勝た所が餘り名譽でもあるまい、英人は運動は飯よりも好きであるか、れば身體に彈力あり、いつも若々しい、然るに日本人はデキに年寄りたがる、我國に於てもモ少し運動場が殖え、英人に對すべき老人運動場がわつて欲しい。

ルーズベルト氏は、大統領任期満期の曉には、亞弗利加に行き、猛獸狩を企つべしと傳へられてゐるが、英人も猛獸狩を好む人民である、日本人にも此氣象はあつて欲しい、日本の獵夫が、雀や雉子位を撃つて恐悦がつてゐるが、何んぞ進んで朝鮮に虎を狩り、北海道に熊を射止めぬのであらうか、駄小説や、戀愛談に耽溺して、國民の士氣萎靡沈滞して大に振はず、此勢で進まば、次回戦争には如何にするか、英國の新聞を見れば、虎に肩を咬まれたといふ記事があるが日本の新聞

を見れば、電小僧のために二段返紙面を惜氣もなく埋めてゐる、英國の今日あり、英人の斯特色ある決して偶然ではない。

夫れ日英は同盟國である、物質的に彼より利益を受くべきは勿論であるが、其以外に、即ち精神的にも大に彼に學ぶ所なくてはならぬ、是れ吾輩が、英國民の特色と題し、彼の長所に就て聊か縷々した次第である。

●嘉納治五郎氏の女子の心得

去月二十日青年會館に於ける東京女子音樂學校樂媛會に於て全氏は今日の女子の心得を説かれ左の七條を上げられたり。

- 一 身體の強健ならんことを心掛く可し
- 二 まめやかなる可し
- 三 事の大小を辨へよ
- 四 本務を知れ
- 五 外事に注意せよ
- 六 夫を知れ
- 七 圍の大勢を知れ